香川短期大学紀要　第49巻，125～138（2021）

「音楽」のピアノ実技指導における一考察

―難易度別の指導実践の試み―

渡　辺　理　香・安　藤　千　秋・細　川　千津代・大　山　まゆみ
入　江　教　恵・秋　山　由加理・平　井　まどか・石　川　陽　子

Ⅰ　はじめに

本学のピアノ実技指導は，学生一人ひとりの進度に合わせた個人レッスン形態を取り入れている。子ども学科第Ⅰ部１年生には教員４名，子ども学科第Ⅲ部１年生には教員５名が担当している。保育者養成におけるピアノ実技指導の一考察から，入学生ピアノ経験アンケート調査より2019年2020年の入学生は50％～60％がピアノ未経験であること，また，2020年度入学生の経験年数と習い始めた年齢調査から，半年～３年以内の経験51.7％と幼児期の短期間の経験があり大半は高校生からの経験であることが分かった。経験者であっても経験年数が少ない学生にとって，保育現場が求めている行事や季節の曲がすぐに弾けるとは言い難い状況である。ピアノ未経験者や経験年数が少ない学生に対してピアノ実技指導はどの教員も試行錯誤しながら指導法を模索している。

ピアノ実技指導の研究発表では，鈴木（2015）のピアノの演習授業目的の設定，授業計画の実行，学生自身が実感できる成果を上げるための工夫など授業改善点について挙げ，「弾き歌い」が学生たち自身の夢や目指す職にとって必要な技術であると理解できるとピアノ初学者も経験者も納得して練習し，大きな成果を生むと感じられると報告している[1)]。ピアノ技術の表現力に着目した研究に，早川（2016）の音楽の還元分析から主要な音や諸音の関係性が視覚化から，楽曲の理解や解釈が促され音を強調・関係性を意識しながら表現方法を創出するという工夫につながったと報告がある[2)]。浅見（2019）は授業構成の整理からコード伴奏を指導するには，旋律と歌詞の特徴を掴むためにも旋律の知覚・感受をすること，旋律を支えるためのコード伴奏のアレンジということを前提に授業構成をすることが有効であると述べている[3)]。

本研究では，「音楽」の授業科目から，必修曲として取り入れている季節や行事の童謡曲，学生の任意で選曲する童謡曲について難易度別にピアノ実技指導の実践を行い，次年度の授業内容の見直しや課題曲の選定を含め，実技指導の取り組みについて検討することを目的とする。

Ⅱ　課題内容と実践指導法

保育者養成校におけるピアノ実技指導の一考察では，「音楽」の授業全体の内容説明やアンケート調査による考察を行ったが，本研究は童謡曲A・B・Cグループ難易度別の課題曲について曲目，概要説明とピアノ指導についての実践報告をする。

Ⅱ－①童謡曲Aグループ

表１

	童謡曲Aグループの課題曲と概要
課題曲	むすんでひらいて　手をたたきましょう　大きな栗の木の下で ぶんぶんぶん　★たなばたさま　とんぼのめがね　★お正月 ★ごあいさつ おやつ　かたつむり　とけいのうた　ぞうさん ★チューリップ（ヘハニト）★ちょうちょう（ヘハト）うみ　ゆき 夕焼け小焼け　★春がきた　★まつぼっくり　★ジングルベル おはようのうた　★こいのぼり　クラリネットをこわしちゃった

令和２年11月27日受理
連絡先　〒769－0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学　子ども学科
TEL　0877(49)8061　FAX　0877(49)5252
Email　watanabe@kjc.ac.jp

課題曲の概要	・童謡曲22曲，その内必修曲９曲を配置する。 ・保育現場で使われている季節・行事・生活の童謡曲を配置する。 ・技術レベルは「やさしい」童謡曲を配置する。 ・学生が幼いころから馴染みのある曲目を配置する。 ・全体に右手がメロディーラインを演奏し，左手でコード伴奏（和音の基本形・転回形・分散和音）で演奏する。 ・移調奏の２曲では，原調へ長調からハ・ニ・ト長調に移調する。

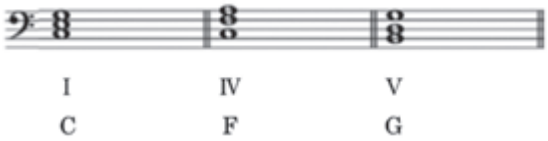
「**むすんでひらいて**」[4] 作詞者不詳・ルソー作曲

学生は前段階でⅠ，V_7の和音の弾き方を学んでいる（『やさしいピアノ伴奏法』1995）[5] が，ここからは主要三和音Ⅰ，Ⅳ，Ⅴを扱い，同時にコードネームから演奏することを習得する。指導の手順を記す。

初めに，楽譜を見て進み方を確認する。前奏が書かれていないため，終わりの４小節を前奏に充てる。D.C.とFine，フェルマータの意味を確認，Fineから前に４小節を数えるため，５小節目から８小節目が前奏となる。調号がないことからハ長調であることも確認する。次に右手の練習をする。よく聞き馴染んだ可能性の高い曲であるが，楽譜にまだ不慣れな学生が多く，音とリズムを正しく読み，適切な指使いで練習することを指導する。まずゆっくり正しく，間違えないよう丁寧に，階名や歌詞をうたいながら繰り返し練習して慣れていく。前奏の開始音ソを５指で始め，８小節目までは順番に並んだ指のまま弾く。次のフレーズはラがあるので，指全体を右隣りにずらして９小節目のミを２指から始めることを薦めているが，３・４・５指は連続すると動きにくいため，場所を間違えないで弾けそうであれば，ミを１から弾くことも薦めている。指使いはいずれ学生自身が適切な指使いを自分で判断できるように，また学生一人ひとりの手指の状態や動きを見て話すよう心がけている。基本として指を１本ずつ，鍵盤一つずつに順番に並べて置いておくこと，レガートで弾くことを念頭に，フレーズごとに最も高い音・低い音を見てそのフレーズの初めの指使いを決めることを指導している。次に左手の練習をするが，まず，前段階の確認と主要三和音を考える。前段階では，ハ長調･ヘ長調･ト長調の２コードを扱った。２コードはⅠ，Ⅴのところ，Ⅴの代わりにその発展したものといえるV_7を扱い，右手で弾くメロディーの音に合わせた使い方を学習した。

ここでは，主要三和音（Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ）をコードネームとともに覚える。

楽譜１（主要三和音Ⅰ，Ⅳ，Ⅴ）



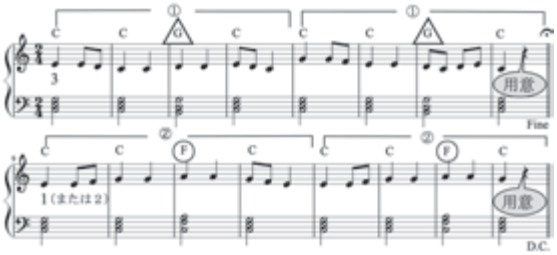
まず，基本の動きを練習する。和音とともに手の形を覚えて，和音記号またはコードネームを言いながら弾くことを繰り返して慣れておく。

①Ⅰ → Ⅴ → Ⅰ（１指はそのまま動かず，３指と５指が左隣りにずれて戻る）

②Ⅰ → Ⅳ → Ⅰ（５指がそのまま動かず，１指が右隣りへ，３指の右隣りの２指が弾いて戻る）

この曲は①と②の和声進行の組み合わせによりできているので、この基礎練習が有効である。ピアノ経験のある学生にとっては確認ができ、初歩の学生にとっては和音から和音への動きが身につき、実際にスムーズに左手練習から両手練習に進めているようである。次に，左手を楽譜通りに練習する。階名や歌詞をうたいながら左手を弾くと，より慣れていくことができ，暗譜にも繋がる。そして次に，うたわないで両手で合わせて弾く。このときに大事なことは，片手でできるようになったことが両手でもできるように，間違えないよう確認しながらゆっくり丁寧に合わせることと指導している。それから弾き歌いを繰り返し練習して，慣れていく。

楽譜２（むすんでひらいて）



左手はコードネームが書かれているところで弾くと考える学生が多い。拍を感じられるように和音を１拍目に弾くのはもちろんだが，分散和音で弾くことも可能であり自由である。実際に現場で子どもた

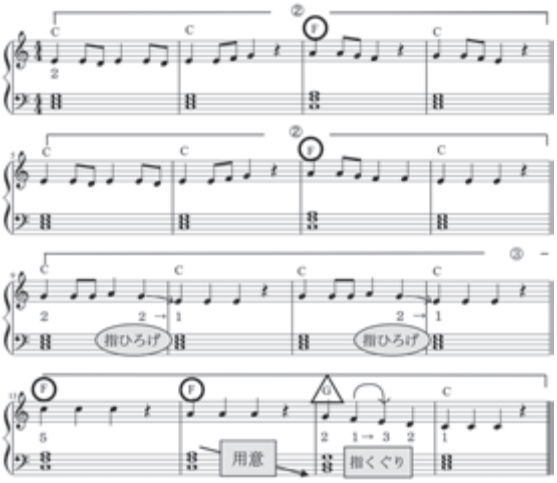
ちが音楽を楽しむためにさまざまなアレンジも必要だが，初歩のここでは基本を身につけることを優先する。

「**手をたたきましょう**」[4] 小林純一作詞・作曲者不詳

ハ長調，Cと書かれた４分の４拍子である。終わり４小節を前奏として使う。

右手の指使いでは，「ソファミレド（21321）」で指くぐり（１→３）をするときにリズムが転ばないよう気をつける。難しい場合は，「ラララ（333）」から飛んで「ソファミレド（54321）」へ用意する。しかしながら左手がちょうどⅣからⅤへの難しい和声進行の部分なので，飛ぶよりは21321を薦めたい。１小節目のミを２から始め，９小節目でソを２に移動すると，２と１の指を開くところはあるものの，14小節目まで移動することなくそのまま弾くことができるため，薦めている。

楽譜３（手をたたきましょう）



左手は前述した通り，ⅣからⅤへの進行が難しく，間の鍵盤を触ってしまうことが多いため，ここでも基本練習を薦めている。前述の①②に加えて③を繰り返して手に動きを馴染ませる。

③Ⅰ → Ⅳ → Ⅴ → Ⅰ（①②を組み合わせた形である。Ⅳ → Ⅴの進行は右側のⅣから真ん中のⅠを弾かずに左側のⅤへ移動する。）

「むすんでひらいて」と同様に，階名や歌詞をうたいながら，片手および両手の練習を積み重ねていく。

どの曲も譜読みや練習の初めに時間がかかるが，あきらめずにコツコツと，ゆっくり正しく丁寧に練習を積み重ねていくことが大事である。学生が卒業後，忙しく仕事をしながら多くの童謡を自力で練習して子どもたちを指導したり，楽しませてあげたりすることを考えると，初歩段階のこれらの童謡の弾き歌いにおいて，音楽の仕組みや練習の仕方を理解できるよう個々に合わせた指導が特に大切と考える。

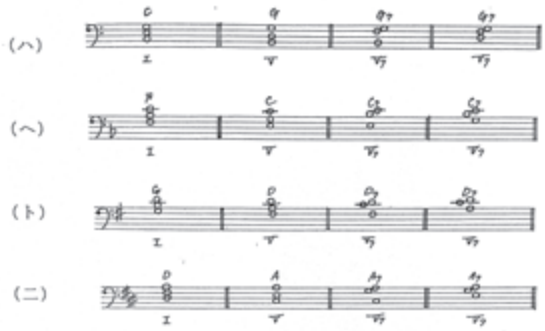
「**ちょうちょう**」[4] 野村秋足訳詞・スペイン民謡

「**チューリップ**」[4] 近藤宮子作詞・井上武士作曲

元々，「ちょうちょう」はスペイン民謡であるが，「チューリップ」と共に春の歌として昔から親しまれ，誰もが一度は歌ったり聞いたりしたことがあると思われる。本学はこの２曲をどの年齢の子どもにも歌えるようにと考え，ヘ長調の曲をハ長調，ニ長調，ト長調に移調奏する課題を設けている。しかし，学生にとって必修曲の「ちょうちょう」「チューリップ」の移調は難しく，すぐには取りかかりにくいのが現状である。ここでは上記２曲の移調奏について触れていく。

学生は，童謡に取りかかる前に，コード伴奏（２コード）のハ長調，ヘ長調，ト長調の学習をする。

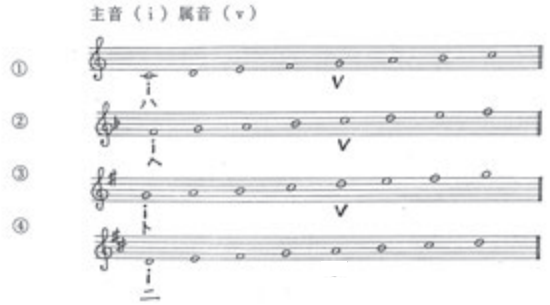
楽譜４（ハ ヘ ト ニ）



指使いに関しては，両手の親指を１とし，小指の方向に向かって人差し指２・中指３・薬指４・小指５の指番号の説明も加える。まず和音Ⅰ，Ⅴ（V_7）

を理解した上で，コード伴奏での知識を利用し，それぞれ♭系長調と♯系長調への移調を試みる。「こどものうた200」内の楽譜は，２曲共へ長調である。ハ長調，ト長調に移調していく。更に「チューリップ」の場合は，ニ長調にも移調することが課題となっている。移調譜を作成するためには，それぞれの音階によって，調の調号や主音（ｉ）になる音を理解する必要がある。

楽譜５（①②③④）



童謡は弾き歌いが基本なので，同時に歌の部分も調にあわせ音の高さを変えられるようにする。だが，学生にとって移調することは初めての試みなので，下記の説明も加えながら指導していく。

「移調奏ちょうちょう」

使用している楽譜が♭系のへ長調なので主音と楽曲中の音の配置を理解して，ハ長調，♯系のト長調へ移調していく。右手は主音からではなく，その調の属音（ｖ・５番目の音）から始まっている。左手の和音は基本のＩ・Ｖ（V_7）の和音を分散和音にしている。基本的に前奏がない楽譜の場合は，終わりの４小節部分を利用し前奏とする。へ長調の場合，主音はファ（音名へ）になる。（楽譜５②参照）上記で述べたように右手は属音から始まるので，ドからである。調号は♭一つなのでシの音に気を付ける。

へ長調と同様，ハ長調，ト長調もそれぞれの調の調号など楽曲の構成を理解し，音の動きに従って，左手もＩ，Ｖ（V_7）の分散和音を実践できるように指導する。

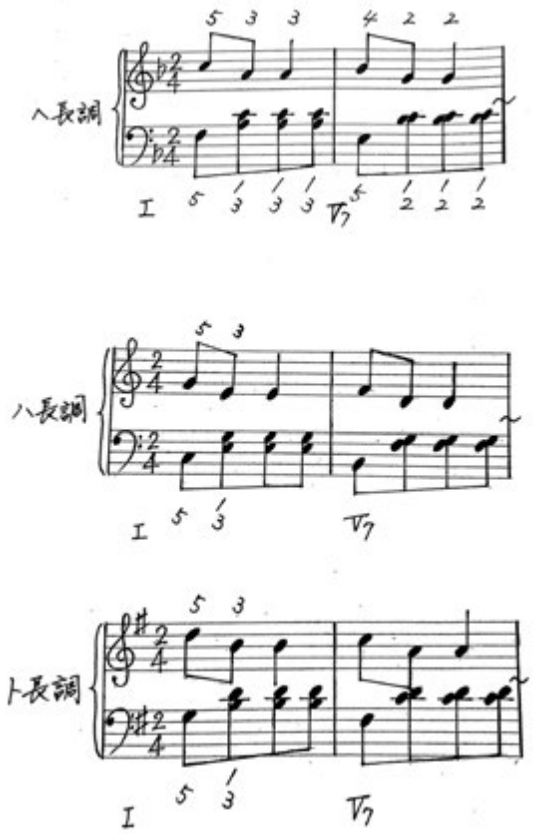
ハ長調，ト長調と共に共通していえることは移調しても指使いは同じで，右手５，左手５から始める。次の音は右手３，左手の和音は３と１を使う。例えば，へ長調の場合，右手ド（５），左手ファ（５）から始めることになる。その後の右手ラ（３），左手の和音は，ラ（３）・ド（１）を使う。

ハ長調の場合，調号は無く，主音はド（音名ハ）である。（楽譜５①参照）

この場合も属音のソの音から始まることに注意する。右手ソ，左手ドの音が共に５の指から始まることになる。

ト長調の場合，主音はソ（音名ト）である。（楽譜５③参照）この場合も属音のレから始まる。調号が♯一つなのでファの音に気を付ける。右手レ，左手ソが５の指から始まる。

楽譜６（ちょうちょう へ ハ ト）



「移調奏チューリップ」

「チューリップ」もへ長調からハ長調，ト長調，そしてニ長調に移調する。それぞれの調の主音と楽

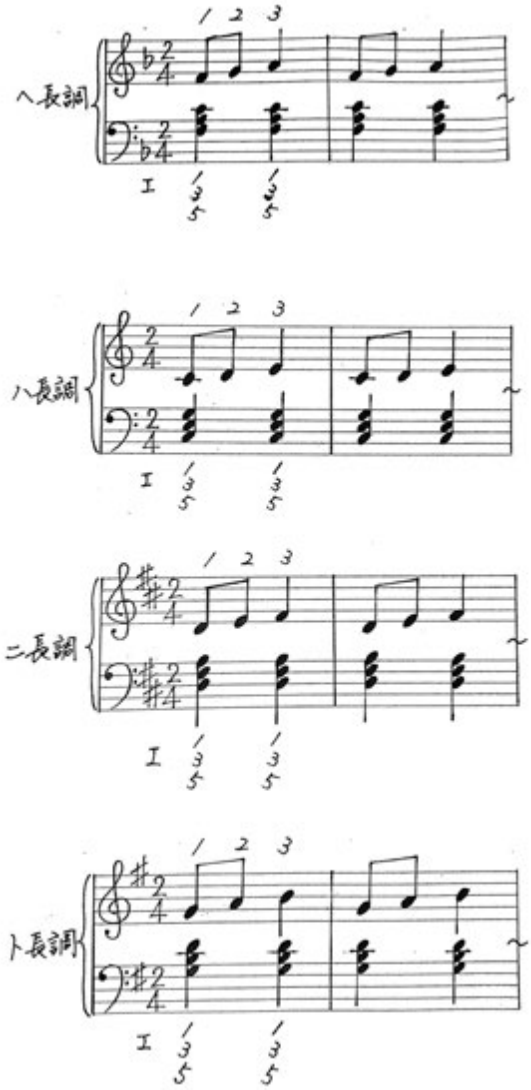
曲中の音の配置を理解する必要がある。右手の最初の音が主音から始まっている。左手も主和音（Ⅰ）から始まっていることに注意する。基本のⅠ・Ⅴの和音が出てくる。（楽譜４参照）

ハ長調，ニ長調，ト長調は，共に指使いも共通している。右手は１，左手の三和音は５・３・１の指で始める。

ヘ長調の場合，主音はファ（音名ヘ）である。（楽譜５②参照）

調号が♭一つなのでシの音に気を付ける。上記で

楽譜７（チューリップ ヘ ハ ニ ト）



述べたように，右手は主音のファから始まるので１の指を使う。左手は主和音のファ（５）・ラ（３）・ド（１）から始まる。右手の次の音は，ソ（２）・ラ（３）につながる。

ハ長調の場合，主音はド（音名ハ）である。（楽譜５①参照）

調号は無い。右手が主音のド（１），左手の主和音はド（５）・ミ（３）・ソ（１）になる。右手の次の音は，ヘ長調と同様，レ（２）・ミ（３）の指につながる。

ニ長調の場合，主音はレ（音名ニ）である。（楽譜５④参照）

調号は♯二つなのでファ・ドの音に気を付ける。右手は主音のレ（１）から，左手は主和音のレ（５）・♯ファ（３）・ラ（１）から始まる。右手の次の音は，上記で述べたようにミ（２）・ファ（３）である。

ト長調の場合，主音はソ（音名ト）である。（楽譜５③参照）

調号は♯一つなのでファの音に気を付ける。右手は主音のソ（１）から，左手は主和音のソ（５）・シ（３）・レ（１）から始まる。ここでも右手の次の音は，ラ（２）・シ（３）の指を使う。

以上の点に気をつけながら，それぞれの課題に取り組めるように学生を導く。保育現場では，ただピアノ譜を見て弾き歌うだけでなく，移調することによって，対象となる幼児の発達に合った無理のない音域で歌うことも可能に出来る。今回の知識を応用し，他の曲の場合にも移調奏を役立ててほしい。

「**まつぼっくり**」[4] 広田孝夫作詞・小林つや江作曲

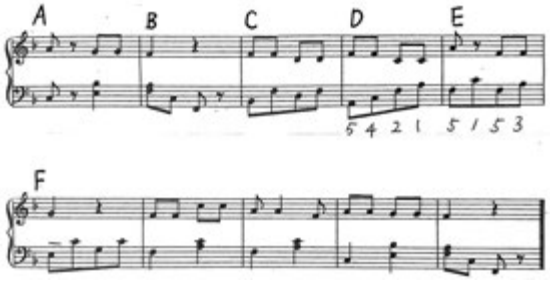
保育現場では，季節に関する歌を歌う場面が多い。そこで子ども学科１年で弾き歌いをする「まつぼっくり」を取り上げ指導法について述べる。

「まつぼっくり」は１年生全員が弾かなければならない必修曲である。この曲は，２/４拍子である。シの音に♭（フラット）が付いていること，またファの音（音名ヘ）で終わっていることからヘ長調の曲であることが分かる。拍子，調については，小・中学校の音楽の授業で学習しているが，改めて確認したうえで曲に取り組むようにする。 なお，この楽譜のように前奏がない曲については，曲の終

わりから４小節前を前奏として弾く。

この曲は，ヘ長調の３コードを基本とする分散和音である。練習法として，まず基本の３コードを使った伴奏で曲終わりまで弾いてみる。次に楽譜の分散和音で弾いてみると基本の３コードに比べて素朴な口調で語られる昔話を聞いているような一定のリズムがあることが分かる。それは，この曲のメロディと分散和音のリズムがほぼ同じ形で進んでいるからだと考えられる。

楽譜８（まつぼっくり）



A→B“ラ　ソ ソ ファ”Bの♫♪ 𝄾 →C→D→E→F“ファファレレファファドドラ　ファファソ”へとお話がつながるように分散和音の形が変化する。またCのシファレファ→Dのラドファラ→Eがファドラドではなくファドファラになっていることから，まつぼっくりが山のいたるところに転がっている様子を表現していることが分かる。指使いについては，Dのラドファラを５→４→２→１，Eのファドファラを５→１→５→３とする。ここで，それまでのテンポがCの“ファファレレ”から明らかに遅くなる学生がいることから♩＝84（お話しするように）と記されているとおり，落ち着いたテンポで弾きはじめることが大切である。これによりCからの動きのある分散和音に変わっても曲の終わりまで一定のテンポで弾くことができると思われる。この楽譜のように分散和音を効果的に使って弾くことにより，曲の情景を思い浮かべつつ，お話しするように素朴なイメージで弾き歌いができるように指導する。

Ⅱ－②童謡曲Bグループ

表２

	童謡曲Bグループの課題曲と概要
課題曲	★豆まき　しゃぼんだま　先生とお友だち　★おべんとう 歯をみがきましょう　★おかえりのうた　アイアイ　ジングルベル ★どんぐりころころ　ミッキーマウスマーチ　思い出のアルバム こどもの世界　おもちゃのチャチャチャ　おばけなんてないさ めだかの学校　たき火　うれしいひなまつり　おへそのうた 南の島のハメハメハ大王A　ふしぎなポケット　犬のおまわりさん
課題曲の概要	・童謡曲21曲，その内必修曲４曲を配置する。 ・保育現場で使われている季節・行事・生活の童謡曲を配置する。 ・技術レベルは「やや難しい」童謡曲を配置する。 ・オリジナル楽譜で演奏する他，右手がメロディーラインを演奏し，左手でコード伴奏（和音・分散和音）の曲目も配置している。 ・就職試験対策用に時期を問わず対応できる童謡曲（犬のおまわりさん，ふしぎなポケット他）を配置する。

「**おもいでのアルバム**」[4] 増子とし作詞・本多鉄麿作曲

本科で学ぶ「まつぼっくり」と「おもいでのアルバム」は，ともに伴奏に分散和音が使われている。分散和音は，それぞれの曲のメロディーに合わせ和音を構成する３つの音（ドミソ）を基本に根音→第５音→第３音→第５音の順番で分けて弾く形や根音とそれ以外の音を弾く形などがあり，これにより，軽やかで一定のリズムを感じさせる効果がある。

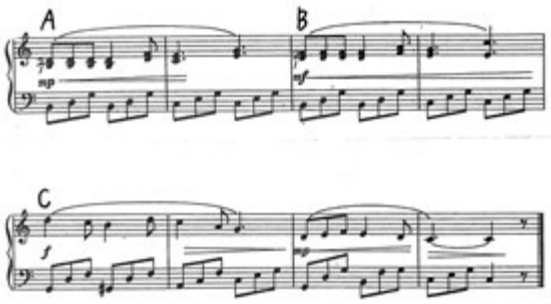
「おもいでのアルバム」は，学生自身が１年生の指定課題曲の中から選曲するものであり，難易度は中級程度と誰でもが簡単に弾ける曲ではない。しかし，アンケートの結果，この曲を選曲する学生が59人中31人と半数を超えている。このように多数の学生がこの曲を選択した理由として，卒園時に歌われることが多く，歌詞・曲ともに抒情的であるからだと考えられる。

この曲は，ハ長調，６/８拍子であることから１小節に八分音符を１拍とした６拍分が入る。

またハ長調の３コードを基本とする分散和音が使われていることから，これらを認識したうえで，まず和音で弾いてみることにより和音の構成や進行などを理解することができる。先にも述べたとおり，学生の過半数がこの曲を選曲しているが，選曲しなかった学生の中には，ピアノ初心者であることから，分散和音による伴奏が難しいと感じた者が多いようだ。これらの学生にとって，この曲を分散和音

ではなくハ長調の３コードでの伴奏付け，つまり簡易伴奏で弾くことにより，レパートリーの１つに加えることができれば自信に繋がるのではないかと思われる。この曲のように６／８拍子で作曲された童謡は数少なく，この拍子および歌詞が春夏秋冬それぞれの季節における園生活の思い出により構成されていることが相まって様々な情景が思い浮かぶ美しい曲であることが分かる。これらのことから楽譜にあるスラーや強弱記号に留意することが大切であると考えられる。

楽譜９（おもいでのアルバム）



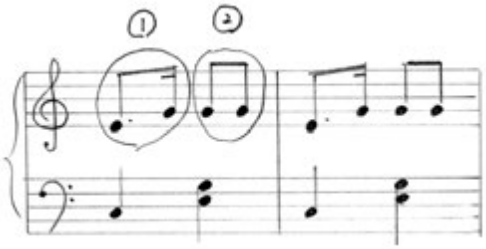
特にA（mp，クレシェンド）→B（mf，クレシェンド）→C（f，デ・クレシェンド）を十分に表現する。また，Cの分散和音がG_7→$G^{\#}dim_7$（経過音）→F→Cへと次々に変化することにも注意する。指使いについてはAのシレ，Bのレファをそれぞれ１，２で弾くことにより先の音に進みやすいと思われる。歌については，自然なブレスで響きを大切にしながら表情豊かに歌うようにする。響きをつかむには，ハミングで歌ってみることにより響きが鼻に集まることを感じ取り，その響きの場所を十分に意識しながら歌詞をつけて歌うようにする。以上の点に留意して６／８拍子の１小節を大きく２拍に感じながら表情豊かに弾き歌いできるように指導する。

「おべんとう」[4] 天野　蝶作詞・一宮道子作曲

この曲は，保育現場や遠足の昼食時間の始めによく歌われる曲である。振りも各園で考えられ，幼児が踊りながら歌うことも多くある。幼児が踊りながら歌うことによって，気持ちの切り替えが自然と行われ，今から昼食を食べる雰囲気を作ることができる楽しい曲である。

最初に出てくる①のリズム（付点八分音符と十六分音符からなるリズム，「タッカ」と呼ばれる）が多く入っており，このリズムによって楽しさを感じられ，学生にとっても印象に残り，演奏に取り組みやすい曲である。しかし，その後の②のリズム（八分音符が２つ連続するリズム，「タタ」と呼ばれる）が，①のリズムの直後の拍に表れているため，この２つのリズムの弾き分けが難しいようである。また，①のリズムを意識すると，②のリズムを①のリズムとして演奏してしまい，①のリズムであるのか，②のリズムなのかと迷ってしまう状況も出てくる。この曲を知っている学生も多いため，リズムの弾き分けができるようにと歌いながら演奏させると，幼児期の記憶も確実でないため，意識せず①のリズムで統一して演奏することが多々ある。

楽譜10（おべんとう）



①と②のリズムを弾き分けるために，（１）～（３）までの手順で指導する。

（１）リズムの説明

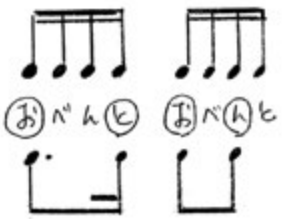
①のリズムの付点八分音符は基準となる四分音符１拍分を４分割した３つ分，十六分音符は４分割した１つ分，②のリズムの八分音符は四分音符を２分割（半分）にした１つ分であると説明する。

（２）言葉「おべんと」を用いたリズム練習

リズムの違いを理解するために，言葉を当てはめた練習を行っている。その方が理解しやすく，また，声に出して練習ができるので，曲名である「おべんとう」からとった「おべんと」という言葉を１拍に入れる練習方法が効果的である。①のリズムは「お」と「と」に当たり，②のリズムは「お」と「ん」にあたる。いきなり演奏せずに，「おべんと」とリズムに当てはめながら手を叩いてリズムになれるよ

う練習をする。その後声に出さずリズム通り手を叩けるようになれば，ピアノで演奏へ移行する。

楽譜11（リズム）



（3）ピアノ及び弾き歌い練習

反復練習で習得したことをもとにピアノ練習から始める。しかし，演奏に慣れてくると，リズムの間違いが再び起こることもあるので，適宜言葉を言いながら手でリズムを叩く練習を取り入れることも必要もある。コード進行としては，基本であるⅠ（ド・ミ・ソ），Ⅳ（ド・ファ・ラ），Ⅴ（シ・レ・ソ）という主要三和音から成り立っているため，取り組みやすい。そのコードは，左手で演奏することになる。リズムは四分音符で統一されているため，拍をとる役割をしているので，メロディーが弾きやすいと考えられる。保育現場では，必ずしも楽譜通りのリズムで伴奏を弾いたり，または，子どもが歌っていたりするとは限らない。

テンポが速い伴奏では②のリズムが①のリズムで演奏したり，子どもも同様に①のリズムで歌ったりしている。楽譜通りのリズムを伴奏するには，演奏する速さも考慮して弾くよう指導する。曲を通して出てくる①のリズムは「スキップ」という名称で例えられるほど楽しさや嬉しさを感じられるリズムで，幼児のお弁当に対する期待感を①のリズムで表現できると，お弁当や給食がいっそう楽しい時間となるであろう。

「**どんぐりころころ**」[4] 青木存義作詞・梁田　貞作曲

この曲は，秋の定番曲であり，幼稚園実習でも使われる曲である。１番と２番の歌詞の内容はつながっており，１曲で物語が感じられるため，１番から２番の終わりまで通して歌いたくなる曲である。

この曲については，以下の３点に注意しながら指導する。

（1）音部記号の注意

左手は最初にト音記号がつけられているが，見落とす学生が多くおり，また，右手と近いポジションをとることになるため，間違っているのかと思い，どこの音域で弾くのかと迷っている学生も見かけられる。その際には，右手のト音譜表上に左手で演奏する音を書き込んで音域を確認することが大切である。歌唱が始まった部分では，１段目の終わりのヘ音記号を見落とさないようにして，２段目に向けて手のポジションを低音部に移動させることが大切である。右手のメロディーに八分休符が入った時に，左手のメロディーが合いの手のように演奏するところは，曲のポイントとなり面白い部分であるため，タイミングよく入れることが重要である。

（2）言葉の違いによるリズムの変化

注意すべきは①の部分で，言葉のリズムによって１番と２番のリズムが異なる。１番は右手と左手のリズムは同じであるが，２番は右手と左手のリズムが異なるため弾きにくさを感じるかもしれないが，歌いながら練習してリズムに慣れていくことが大切である。

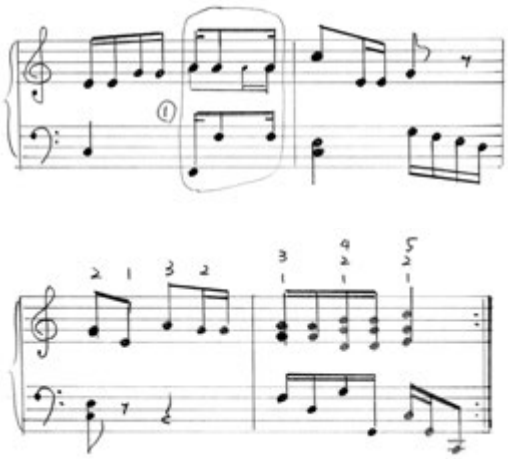
（3）連続する十六分音符の和音の練習

右手のメロディーは，歌唱旋律と同一であるため取り組みやすいが，最後に十六分音符を和音で４個続けて演奏するため，弾くのが難しいと感じられる。また，十六分音符が連続するリズムの中に３種類のコードを入れることに学生は苦労している。この練習方法としては，まず，３種類のコードを１回ずつゆっくり弾き，和音を演奏する際の手の形を覚え，徐々にテンポを速くしていく。その後，楽譜通りの回数で弾くようにすると和音の部分の演奏が可能となる。コードをきちんとつかもうとすると，最後の小節だけかなり遅いテンポになってしまうため，繰り返し練習が必要となる。曲全体としても，十六分音符が多いため，指遣いに難しさを感じてしまうが，八分休符のところで手のポジションを移動させるとスムーズに弾くことができる。

この曲は，前奏から，どんぐりが跳ねる様子を高い音で表現し，順次進行や両手のメロディーによる反進行もどんぐりが転がって池に落ちる様子を表しており，一気に物語に引き込まれる。歌詞が表すど

んぐりのかわいらしさが伝わるように演奏できるとよい。季節を感じられる曲であるのでぜひ取り上げてもらいたい。

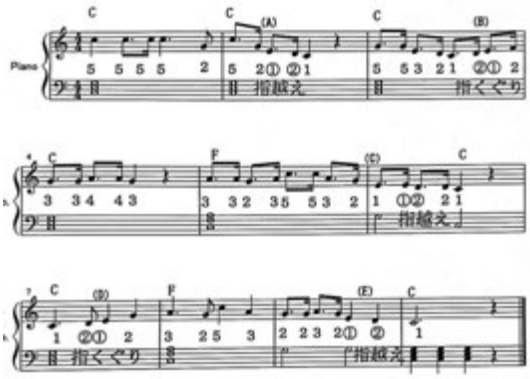
楽譜12　13（どんぐりころころ①②）



「**おかえりのうた**」[4)]　天野　蝶作詞・一宮道子作曲

この曲は、保育現場で帰りの会で必ず歌う歌である。

楽譜14（おかえりのうた）

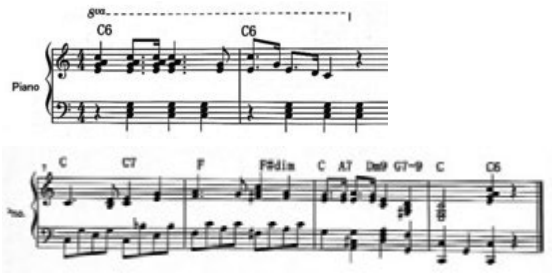


初心者用として左手の伴奏の重音のリズムと八分音符のアルペジオをやめて全音符や二分音符で簡単にした。指番号を指示することで５度以上離れた音符でも迷わず弾くことができる。前奏は，高いドからスタートで５の指から始める。

（A）２小節目［ドソミレド］［52①②１］指越えがある。(B）３小節目［ソソミレドレミファ］［５５３２１②①２］指くぐりがある。(C）６小節目［ミミレレド］［１①②２１］指越えがある。(D）７小節目［ドレミソ］［１②①２］指くぐりがある。(E）９小節目［ソソラソミレド］［２２３２①②１］指越えがある。伴奏はコードがC（ドミソ）F（ドファラ）の２つとソドの単音を２つ使う。前奏は，Cのコードだけである。歌が始まる３小節目は，Cのコードだけである。５小節目はFのコード，６小節目はソドの単音にした。コードで弾くとCGCと３つのコードを弾くところを最初のCを第二転回形でソ次にGの根音ソそして次のCの根音でドとすることで弾くことは簡単になったがＩＶＩの響きはそのままである。７小節目はC，８小節目はF，９小節目は６小節目と同じ理論である。

中級は楽譜のままであるが難しい所もある。（楽譜『こどものうた200』[4)] p64参照）まず，前奏の右手の四和音が高いポジションであり，左手の弾き方がペダルでつなぎながらの和音伴奏である。前半の４小節は，右手は単音で左手は三和音で弾きやすい方である。後半は，伴奏がアルペジオとなり右手のメロディーのリズムと合わせる事が難しいところとなる。ここでは，和音を分散させたアルペジオの左手の部分をくり返し練習する。

楽譜15（上級）



上級者用は，中級と違い和音が複雑になっている。和音が四和音になりメロディーが重音になることで広がりが心地よく感じられる。後半にアルペジオを入れて中級の元々のイメージを残している。最後の２小節は，コードを一拍ずつ変えることで動きのある響きになっている。

Ⅱ－③童謡曲Cグループ

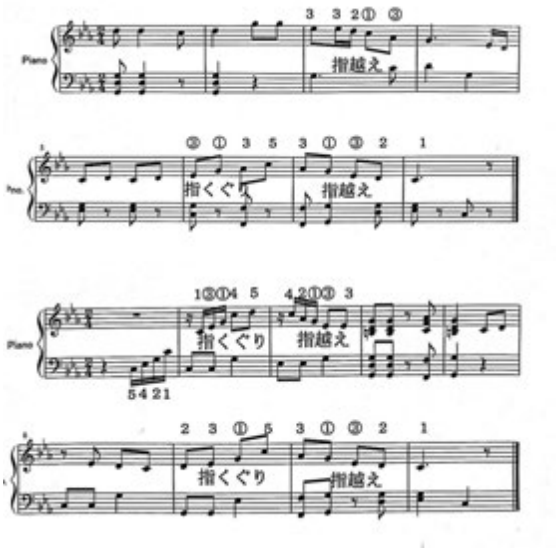
表３

	童謡曲Cグループの課題曲と概要
課題曲	★お母さん　うれしいひなまつり　サッちゃん　アイアイ あわてんぼうのサンタクロース　南の島のハメハメハ大王B アイスクリームのうた　アンパンマン　ドラえもん　サザエさん こいのぼり　とんでったバナナ　お花がわらった　一年生になったら
課題曲の概要	・童謡曲14曲，その内必修曲１曲を配置する。 ・保育現場で使われている季節・行事・生活の童謡曲を配置する。 ・技術レベルは「難しい」童謡曲を配置する。 ・オリジナル楽譜を演奏する。 ・レパートリーを広げるため子ども達がよく知っているアニメソングを配置する。 ・A，Bグループでコード伴奏で演奏した曲目を，Cグループでは難易度の高いオリジナル楽譜（メロディーラインは歌唱で両手伴奏や和音伴奏他）で再度演奏する。

「うれしいひな祭り」[6)]

サトウハチロー作詞・河村光陽作曲

楽譜16 17（うれしいひな祭り①②）

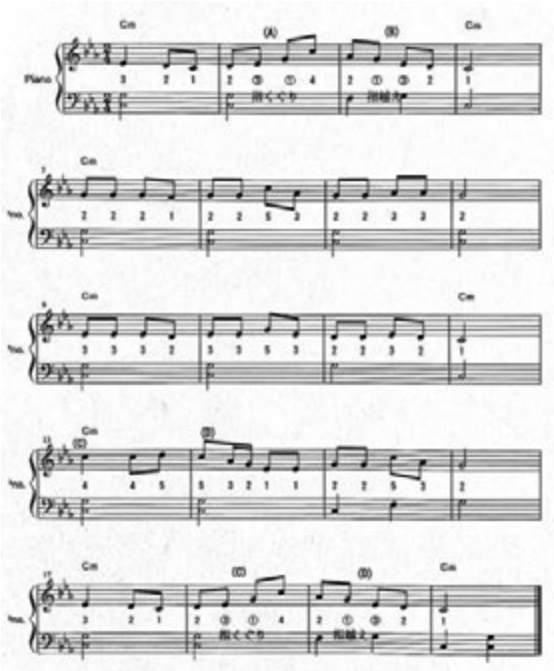


前奏の一段目から指越えが出てきている。(A) ３小節目を［３３２①③］と弾く（○が指越え）二段目の２小節目は指くぐり３小節目には指越えがある。

(B) ２小節目は［③①３５］３小節目はそのまま戻って［３①③２１］（指越え）弾くと考えると覚え易く，歌が始まる９小節目から伴奏が右手も和音になっている。(C) 右手の重音の指番号は，１と３で弾く。(D) 12小節目の後半の十六分音符はミのbを３の指で弾く。(E) 16小節の後半左手の十六分音符の指番号は［５４２１］でしっかり指を広げる。(F) 17小節目の伴奏はとても弾きにくく右手の十六分音符と八分音符は［１③①４５］（指くぐり）次の小節は，［４２①③３］（指越え）どちらもソを①の指にして指くぐり，指越えをする。(G) 21小節目も［２③①５］（指くぐり）［３①③２１］（指越え）とどちらもソを①の指にして指くぐり，指越えをする。指くぐり，指越えが多く難しいが，同じパターンなので弾いてみると案外に弾きやすいと思われる。

初心者用に（楽譜18）を指導する。

楽譜18（初級）



前奏は，曲の最後をとっている。(A)［ミbレドレミbソド］［３２１２③①４］指くぐりが入る。(B)［ラbソミbレド］［２①③２１］指越えが入る。この二箇所はどちらもソを①の指で指くぐり指越えをすることで難しさを感じさせないようにしている。「ソソソファソソドラ」は２の指から弾き始める。「ミミミレミミソミ」からは，ポジションが変わる。

ミbの音を３の指から弾く。「ド－ドレドラソミミ」は一オクターブ上のドである。(C) ４の指から弾く。(D)［ドラbソミbミb］はポジションを一つ下げて［５３２１１］にする。これは黒鍵が１の指になり手の形としては弾きにくいのだが初心者は指が順番に流れる方が弾きやすいと思われる。最後の「ミ－レドレミソドラソミレド」は最初の前奏で弾いたのと同じになっている。左手の伴奏は一つのコードと単音をいくつかだけ使う。

一つのコードはCm（シーマイナー）だけを使う。Cmはドミbソであるが今回は易しくするためにドとソの重音で使う。前奏は「ミ－レドレミソド」はCm「ラソミレド」はファソドと単音で弾く。本来ならばFmG_7Cmの和音を弾くのだがファソドの単音だけでⅣⅤⅠのコード進行が感じられる。「ソソソファソソドラソソララソ　ミミミレミミソミ」までCm,「レレミレド」ソードーと単音で弾く。

この箇所も単音だがⅤⅠのコード進行が感じられる。「ド－ドレドラソミミ」はCm,「ソソドラソ」ドファソと単音で弾くことで左手のポジションを全く動かさないようにしてある。左手の指番号を注意して弾けば，右手の旋律に集中出来るので初心者に使用している。

「**おかあさん**」[4] 田中ナナ作詞・中田喜直作曲

この曲は，子どもとおかあさんとの何気ない日常の会話がそのまま歌になっており，歌の音域も１オクターブ以内と歌いやすく，右手に歌と同じメロディラインがある。高度な技術を伴うCグループの童謡ではあるが，このグループの他の曲に比べ弾き歌いのし易い曲である。曲のテンポもゆったりとした穏やかなものであり無理なく歌いながら演奏できることから，指導の第一段階は，歌と一緒に歌うように弾けるようになるまで右手の一番上の旋律線だけを繰り返し練習することに専念させる。(この段階ではまだ前奏後奏は省いておく)

次に，右手の下の声部をすべて親指（１）でおさえる練習をして先に練習した旋律と合わせていく。休符が多いので初心者でも数回の指導で簡単にできるようになる。ここまでで注意する点は右手の親指は黒鍵にのることが多いことである。黒鍵は，２本と３本のグループになっているがそのどちらのグループとも一番左の１本に親指をおくこと，その際には少し傾けて楽に鍵盤にのせると二分音符や全音符が離れにくくなる。昨今の学生は細くて長い柔らかな指をしているのでかえってこのニ長調のゆったりした曲でコードを押さえるタイプの曲は演奏しやすいのではないかと思われる。

ただし，この曲が難しいと学生が感じ苦戦しているのは，Bグループまでの曲にはなかった独特の個性的な前奏と後奏を弾かなくてはならないことである。

保育の現場においてはすぐに歌で始めて後奏も無くても困らないが，美しく流れるような前奏で歌を導くことや，歌詞のシャボンの泡のはじけるようなかわいらしい後奏を演奏できれば，子どもたちにとって音楽の美しさや曲想に合った歌うことの喜びを自然と感じさせられる保育士であることができる。

そこで私は，前奏後奏の指導にも重点を置いた。

【前奏】

①左手を１から順番にゆっくりと鍵盤の上を歩くように拡げていく。

②右手はまずシンコペーションの部分を両手右左右両手右両手右と口で言いながら１２２１１２３４５２５２の運指を徹底してマスターさせる。

③２小節目への移動は，右手の１を黒鍵から半音上げるためになめらかに滑らせてその反対に５を黒鍵にのせる。左手は１は移動させないで２と５を２を支えにしてすばやく扇を広げるようにサッと開く。

④音型の上行下行に合わせて体重をかけたり抜いたりすれば自然に音量調整ができるようになる。

【後奏】

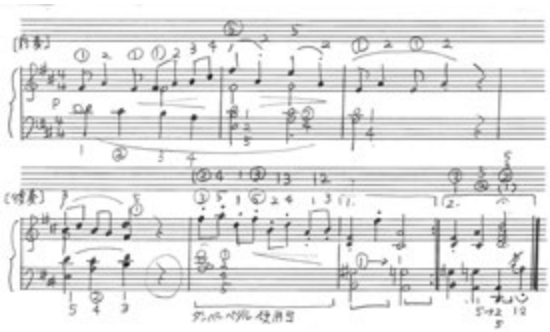
①まず右手は１オクターブ上の３本の黒鍵の左側にのり，できるだけスタッカートをはじかないで４拍目までは同じ間隔でおりてくる。

②左手は10小節目の休符のときに最後のシレを２と４に持ち替えて１は黒鍵にのせ，４の隣に５を添える。

③２かっこは１拍めはドッペルドミナントなので，初めて３本グループの真ん中の黒鍵に左手の１がのる，前の小節の５のすぐ下に移動させ，そのまま左に滑らせておろせばよい。

④最後にダンパーペダルが踏めるようであれば11小節目は踏みっぱなしでよいが12小節目は１拍ずつ踏みかえ最後の左手前打音付きの音でペダルを上げる。

楽譜19（おかあさん）



この曲をマスターできたら「お花がわらった」など前奏後奏が華やかでペダルの効果もある，しかも歌に入ればメロディラインが右手にあり弾き歌いが容易にできるものに挑戦してほしい。

「**あわてんぼうのサンタクロース**」[4)]

吉岡　治作詞・小林亜星作曲

この曲は，両手伴奏で弾き歌いというタイプのもので，歌がしっかりと歌えないとリズム打ちに終始してしまうことになる。歌いながら演奏するためには，やはり歌がしっかりと歌えるようにしておくのはこれまでと同じである。

１番から５番まで絵本を読んでいるような展開の歌詞に，裏打ちのアップテンポでノリノリの曲なので子どもたちには大人気の曲である。

指導のポイント

①左手だけの練習を徹底すること。特に４拍め経過音がある３か所は繰り返し運指も個人の能力に合ったものを使用する。

②歌詞がついているところは歌いながら左手のみ練習する。

③右手はF音に５指を配置している和音の第一転回形なので，１か所半音上がってまた＋半音下がる部分がある。（13小節から15にかけて）

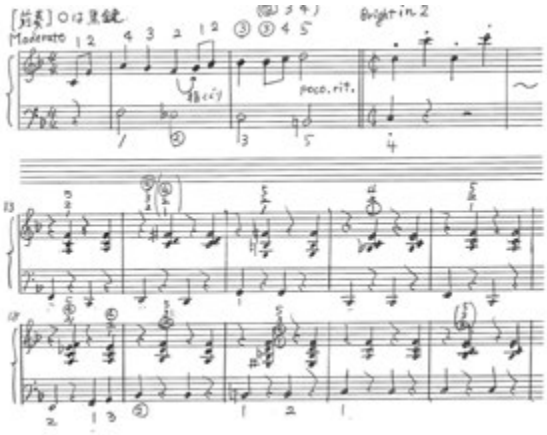
④19から20小節目の右手の移動は，B♭G♯に右手の１の指がくるが，位置的には３本の黒鍵のグループの右から中央へ隣の鍵盤に移動するだけなので，一度覚えれば容易であると思われる。

⑤和音がつかみにくい学生には右手の真ん中の音（２や４）を抜いて，まずは１と５でしっかりとつかめるように指導する。

⑥前奏は，一度指くぐりを出だしと同じ八分音符のところで行うとフレーズも統一されて流れがよいと思われる。

⑦曲想としてはアップテンポだが，出だしはサンタクロースがあくびをしているようにのんびりと，３小節目で倍のテンポになるように楽しんで曲想をつけてほしい。

楽譜20（あわてんぼうのサンタクロース）



この曲と同じタイプのものには「クラリネットをこわしちゃった」がある。またゆったりとした両手伴奏の和音の裏打ちには「一年生になったら」など応用できるものが多い。

Ⅲ　まとめと今後の課題

「音楽」の授業課題から必修曲と任意に選曲する童謡曲について，難易度別にAグループからコード伴奏の２曲と移調奏の２曲，Bグループからは必修曲４曲と選択曲１曲，Cグループからは必修曲１曲と選択曲３曲について，各担当者が練習方法や注意事項など実践している指導内容を記録した。その結果，Aグループの２曲は事前に主要三和音Ⅰ，Ⅳ，Ⅴをコードネームとともに覚え，左手練習から両手

練習に移行することでスムーズに弾くことが可能となった。子どもの音域に合わせた伴奏ができるねらいとして原譜（ヘ長調）をハ長調，二長調，ト長調に移調奏では調号の理解と３コードの基本を練習することから，原譜（ヘ長調）を見ながら移調奏ができるようになった。中でも黒鍵２箇所を弾く二長調が主要三和音の左手が掴みにくく他の調号に比べ仕上げに時間を費やした移調奏と分かった。今回の記録からヘ長調をハ長調と二長調にする移調奏は子どもの歌う音域に合わせるために必要であるが，ト長調の移調奏は子どもにとって音域が高いため課題として必要かどうか今後検討する必要がある。

Bグループの必修曲４曲は保育現場で頻度が高い曲である。どの曲にも難しい箇所が含まれており，ピアノ経験度が浅い学生とって楽曲の理解と弾き方について一度に理解するのに時間を有する。リズムの理解，リズムの弾き方，伴奏と歌詞の入れ方など手順に沿って進める指導法が効果的と示された。

上級者用のCグループは必修曲１曲と選択曲１曲の合格が「音楽」の履修条件となっている。初心者にとってどの曲も前奏部分から苦戦する姿が見られる。ABグループ同様にまずは右手の単旋律と歌を一緒に繰り返し弾けるようにする。

次に右手の重音旋律に合わせて歌を合わせ，左の伴奏へと進む。前奏と後奏は部分練習を取り入れリズムと指の運び，スタッカートやペダルの入れ方など手順に添って進め仕上げていく。初心者には時間をかけ部分練習の繰り返し練習を取り入れ仕上がるよう指導していることが分かった。仕上がるまでにかなりの時間を有する学生もいるが，難易度の高い曲を仕上げ合格した達成感が意欲につながっている。

現在，童謡曲集は数多く出版され，中でも簡易伴奏譜は多く様々な伴奏譜が存在している。本学で使用している『こどものうた200』については簡易伴奏譜が少なく中級向けての童謡曲集と考えられる。この曲集の指導実践報告から，初心者の学生には原譜通りの演奏を追及すると音を奏でるだけになり，子ども達と一緒に歌えるような童謡曲にならず一曲を止まらずに弾くことが難しいことが分かった。そこで，学生の経験歴に合わせた指導法を導入することで，実際に子どもの前で実践できる伴奏に近づけることができた。手順に沿って練習することから，難しいリズムに挑戦でき原譜のままに弾けるようになった学生も多くいる。この指導実践より教則本を簡易伴奏曲集に変更せず現状の童謡集を継続することとする。

今後の課題は，伴奏を止まらずに弾くことだけでなく子どもたちが歌いたくなるような伴奏表現や弾き歌いについて，どのような手順が必要で効果的かを検討していくことである。さらに，実技試験の評価項目にピアノ実技の評価に加え，弾き歌いの項目を点数化することも検討課題である。また，初心者向けに左手伴奏について調号別の主要三和音の基礎的弾きかたや分散和音の弾きかたなど，知りたい時にいつでも確認できるようオンデマンド型の動画作成と導入について考えている。

【執筆者】
渡辺理香　Ⅱ①②③，資料作成　表１～３
安藤千秋　Ⅰ，Ⅲ，まとめと課題
細川千津代　おかえりのうた，うれしいひなまつり，楽譜14～18
大山まゆみ　お母さん，あわてんぼうのサンタクロース，楽譜19～20
入江教恵　まつぼっくり，思い出のアルバム，楽譜８～９
秋山由加理　おべんとう，どんぐりころころ，楽譜10～13
平井まどか　ちょうちょう，チューリップ，楽譜４～７
石川陽子　むすんでひらいて，手をたたきましょう，楽譜１～３

注）本稿内の楽譜は，各出版社に確認済みである。(2020/12/28)
日本音楽著作権協会（出）許諾第2100223-101号（2021/1/12）

参考文献

１）鈴木由美子（2015）「初等教育課程教員及び保育士養成校におけるピアノ実技指導に関する一考察」『千葉敬愛短期大学紀要』37　pp73-83
２）早川純子（2016）「ピアノ表現力のための楽曲

分析－還元分析による試み」『全国大学音楽教育学会紀要』27　pp11-19
3）浅見　愛（2019）「保育者養成におけるコード伴奏を内容とするピアノ実技指導の授業構成―指導内容の四側面を関連づける立場より―」『学校音楽教育実践論集』３巻　pp128-129
4）小林美実編著（2009）『こどものうた200』チャイルド本社　pp.30. 31. 59. 64. 70. 84-85. 93-94. 97. 98. 118. 119
5）桶谷弘美・熊谷新次郎・斉藤正義・末吉加代子・杉江正美編著（2011）『やさしいピアノ伴奏法』音楽之友社　p.4
6）五十嵐　忠（1987）『こどものうた230　第１集　行事と生活のうた』佐藤　玲・納原善雄・室星敦郎共編　圭文社　pp.40-41